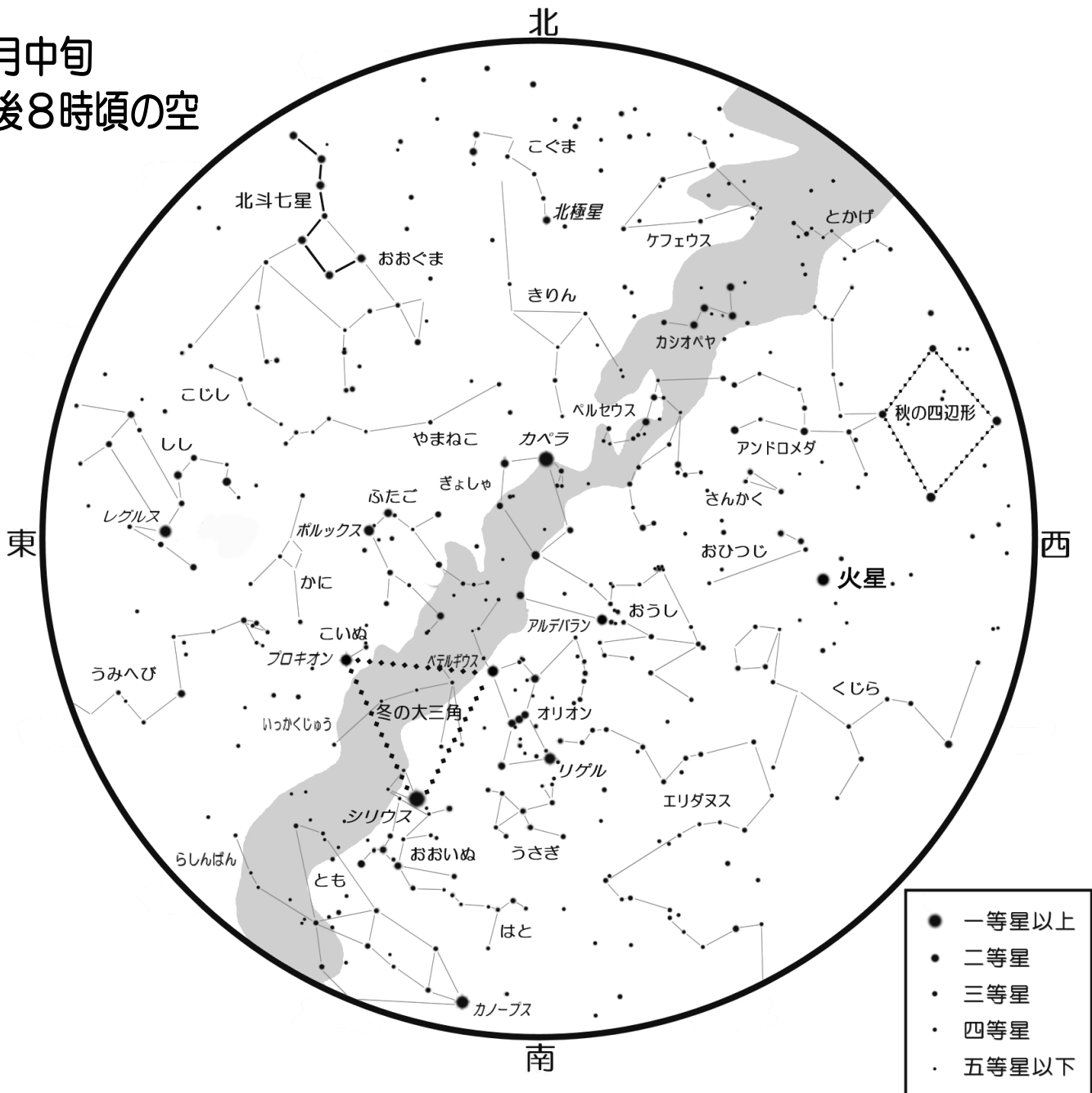


# 阿南市科学センター 2月の星空案内

2月中旬  
午後8時頃の空



今月の星空は、昨夏大接近した火星がまだ西の空に見えています。大きさはずいぶん小さくなり、表面の様子はほとんど観察できなくなりました。次にこの火星が大接近するのは、16年後の2035年となります。

さて、この時期の夜空はなんと8個もの一等星を見ることができます。その中でも注目していただきたいのが、南の空低く見えるりゅうこつ座の一等星「カノーブス」です。この星は、本来おおいぬ座の「シリウス」に次ぎ、全天で2番目に明るい一等星ですが、徳島県からですと、南に非常に低い（阿南市からだと南中時でも約3.6度の高さ）ことから大気の影響を受けて2等星くらいの明るさでしか見えません。また、見えても最長4時間くらいしか見えないことから、別名「おうちくぼし横着星」などと昔から呼ばれてきました。それでも、南の地平線まですっきりと晴れた2月中旬ごろなら、午後8時から10時くらいの間に「ちょこんと」出ている姿が見えますのでぜひ観察してみましょう。

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600

## 2月の月と惑星

### 月の満ち欠け

月の形	●新月	◐上弦の月	○満月	◓下弦の月
見える日	5日	13日	20日	26日

### 惑星

	水星 ●	金星 ●	火星 ●	木星 ●	土星 ●
上旬	太陽に近く観察ができない。	明け方、南東の空に見える (-4.2等→-4.1等級)	夜8時ころ、西の空に見える (0.9等→1.0等級)	夜明け前 南東の空に見える (-1.9→-2.0等級)	明け方、南東の空に見える (0.5等級)
中旬	太陽に近く観察ができない。				
下旬	日没後、西の超低空に見える。(-0.6等)				

## 天文館夜間天体観望会 2月の見もの

### ○ ふたご座の散開星団 M35

現在、夜8時ころ、頭の上近くを見上げると、星占いの星座でもおなじみの、「ふたご座」がありますが、この星座の中には面白い星雲や星団がたくさんあり、その中でも、大きくて小口径でも観察しやすいのが、散開星団「M35」です。夜空が暗いところでは、ふたご座の足元のところに肉眼でもぼんやり見ることもできますが、詳細まで見ようと思うと、やっぱり天体望遠鏡が必要となります。

この星団は、わりと大きいことから、天体望遠鏡ではあまり倍率を高くせずに、50倍程度で見て下さい。それくらいの倍率だと無数の星の姿が美しく見え、この星団の醍醐味を味わうことができるでしょう。また、この星団を見たときには、同じ視野内に小さくて密集度の高い星団、NGC2158 もすぐそばに見えますので、M35を見たついでにそちらの方も一緒に見てみましょう。



## 今月の天文現象

### 岩本彗星(C/2018 Y1)が見ごろ

昨年の11月と12月に阿波市にお住まいの岩本雅之さんが相次いで新彗星を発見しました。11月の彗星は、他にもアメリカのマックホルツさん、香川県にお住まいの藤川繁久さんが同日に発見したことから、「マックホルツ・藤川・岩本彗星」と名付けられ、日本人の発見としては、岩本さん自身が発見した2013年の「岩本彗星」以降、約5年ぶりの新彗星となりました。しかし、岩本さんは、これにとどまらず、12月にも単独で新彗星を発見し、再び「岩本彗星」が誕生したのです。

この12月に発見した「岩本彗星」が2月中旬ころ、6等級程度になると予想されており、予想どおりなら小型の望遠鏡でも確認できるようになります。ただし、彗星の明るさは数字よりもずいぶん暗く感じることから、実際には淡い光のシミのように見えると考えておいて下さい。

なお、岩本彗星の予想光度は、2月11日ごろの6.1等級をピークにその後はだんだんと暗くなっていき、2月末頃には8等級程度になります。加えて、2月15日を過ぎますと、だんだんと月が邪魔になる上に、日没も遅くなりますので、岩本彗星を条件良く観察するなら、2月中旬までと考えて良いでしょう。ぜひ皆さんも地元徳島の方が発見した彗星を観察してみてください。



天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600